

9月24日(火)まで

「**霊の面 怨霊・亡霊・神霊** - 井伊家伝来能面から -」

霊とは、この世のものではない霊的な存在です。鋭い角を持つ女の怨霊や、痩せこけたこの世をさまよう亡霊、颯爽(さっそう)とした男の神など、霊の面の種類とその特徴について紹介します。

9月27日(金)~10月22日(火・祝)

「**殿様の本棚** - それぞれの教養と趣味 -」

彦根藩井伊家の当主たちは、どんなことに関心を持ち、どんな本を読んでいたのか。11代直中(なおなか)、12代直亮(なおあき)、13代直弼(なおすけ)の3代の当主の蔵書を通じて、それぞれの個性を浮き彫りにします。



▲諸家将棋指組記

▶**ギャラリートーク**

9月28日(土) 11:00~11:30、14:00~14:30

事前申込:不要 場所:展示室1 ※観覧料が必要

▶**関連講座「井伊家伝来典籍から見える藩主の姿」**

10月12日(土) 14:00~15:30

当日受付(先着60人) 場所:講堂 ※資料代(100円)が必要

常設展示「ほんものとの出会い」では、譜代大名筆頭・井伊家に伝来した名宝を中心に展示を行っています。

ほんものとの出会い

9月23日(月・祝)まで

「**叢梨地三ツ横菊紋蒔絵楊枝台**」

歯を掃除するときに使う楊枝を収める台。脚付きの台に、ほこりが入らないように蠶帳(はいちょう)を被せた作りです。井伊家14代直憲(なおのり)の正室宜子(よしこ)の婚礼調度の1つ。



▲叢梨地三ツ横菊紋蒔絵楊枝台

■**休館日のお知らせ** 9月17日(火)

■9月24日(火)~同26日(木)は、展示替えのため一部休室します。

チケット情報

ひこね市文化プラザ

10月20日(日) 12:00 メッセ棟1階 展示ロビー
文化プラザロビーコンサート

【自由】観覧無料

出演:彦根 JOY ジュニアオーケストラ、滋賀大学オーケストラ有志、あふみヴォーカルアンサンブル・彦根混声合唱団合同、彦根エコーオーケストラ有志

☆同日13:00~エコーホールにて「秋の市民音楽祭」が開催!

※入場整理券の配布はありません。

※席には限りがあります。

11月9日(土) 17:00 エコーホール

山中千尋DUOコンサート



【指定】【発売中】

一般 4,000円

高校生以下 2,500円

友の会 3,800円

友の会・高校生以下 2,300円

【小学生以上】

【託児あり(有料・要予約)】

申込・お問い合わせ先 チケットセンター
☎27-5200 (9:00~19:00)

インターネットでも購入いただけます。https://bunpla.jp/

9月の休館日 2日(月)、9日(月)、17日(火)、24日(火)、30日(月)

【ひこね市文化プラザ各公演 発売初日の予約の取り扱い】

※電話予約・インターネット予約のみの受付となります。

※窓口でのチケット引き取り・販売は**翌開館日**から承ります。

みずほ文化センター

9月28日(土) 14:00 多目的ホール

お楽しみステージ♪松原のぶえコンサート

【指定】【発売中】前売 2,500円 当日 3,000円



安定した歌唱力を誇り、多くのファンを魅了し続ける女性演歌歌手を代表する実力派歌手の1人。歌手生活40周年を迎えた松原のぶえがみずほ文化センターにやって来ます。新旧のヒット曲満載のコンサートをぜひお楽しみください。

【小学生以上】

【託児あり(有料・要予約)】

11月9日(土) 14:00 練習室

人形劇回京会

でんでら竜がでてきたよ / ニヤのだいぼうけん

【自由】【発売中】前売 500円 当日 600円

小さなお子さんファミリーを対象とした作品です。長崎のわらべ唄からでてきた、ちっちゃい竜とありこの心あたたまるストーリーの「でんでら竜がでてきたよ」と、ニヤニヤないでる、迷子の子ネコ「ニヤ」がぼうけんする「ニヤのだいぼうけん」の2本立て!



【3歳以上有料】

申込・お問い合わせ先 みずほ文化センター
☎43-8111 (9:00~17:00)

9月の休館日 3日(火)、10日(火)、17日(火)、24日(火)

◎入場制限のある公演は託児サービスを実施します(子ども1人1,000円)。各ホールまで事前予約が必要です。

◎表記の価格は全て税込価格です。

◎高校生以下のチケットは、ひこね市文化プラザチケットセンターのみの取扱。身分証明書提示要。

女の怨霊の面 - 般若と蛇 -

能には、この世に生きる人間だけでなく、神仏や鬼神、精霊、怨霊、亡霊といった、人ではないさまざまな存在を主役とする演目があります。これらを演じ分けるために、役柄に相応しい能面が必要とされた結果、基本となるものだけで60種類に及ぶ多種多様な面が作り出されました。この内、恨みを抱く怨霊、この世とあの世の境をさまよう亡霊、霊妙な力を持つ神霊などを演じる際に用いる面のことを、霊の面といいます。



▶写真1 能面般若 井関家重作

霊の面の中には、女の怨霊の役で使用されるものが複数あります。そのひとつが般若(写真1)です。2本の鋭い角を持ち、金色に輝く鬚型の目を見開いて、大きく引き上げた口から牙を覗かせた、恐ろしい相貌の面です。その一方で、目から上の造作を見れば、左右に振り分けた黒髪やうつつすらと表わされた作り眉は女性らしさを残しており、眉間を寄せた目元の表現からは、深い

悲しみが感じられます。般若には、怒りと悲しみ、相反する感情が巧みに表現されているのです。

蛇(写真2)も、般若と同じく女の怨霊役で用いる面のひとつです。耳はなく、えらが張り、下顎は前方に突き出し、大きく開いた口には真っ赤な舌が表わされています。顔の中央に上向きに大きな鼻が据えられているため、やや品位に乏しく野卑な印象を受けます。般若に見られたような悲しみの表現は一切なく、獯猛ともいえる激しい怒りが前面に押し出された相貌です。

では、この2種類の面は、どのような演目、役柄で使用するのでしょうか。

般若を用いる演目のひとつが「葵上」です。「葵上」は、源氏物語を題材とした演目で、恋人である光源氏の訪れが遠のいたことを恨んだ六条御息所が、嫉妬と怒りによって怨

霊となり、正妻の葵上を責め苛むというものです。この怨霊となった六条御息所の役で般若を用います。怨霊になった般若を用います。怨霊になったとはいえ、本来、六条御息所は身分の高い貴族の女性ですから、使用する面にも単なる怒りのみを表現したのではない、品位ある造形が求められました。女性的な要素を残し、怒りだけでなく悲しみも表現する複雑な表情の般若は、この要求を満たした面なのです。



▲写真2 能面蛇 甫閑清猪作

一方、蛇は、恋い慕った山伏に裏切られたと思いついた娘が、死後もその恨みを果たそうと蛇体となって現われる「道成寺」専用の面です。「道成寺」には般若も用いますが、もはや完全に人から離れた蛇体の面としては、野卑な印象の蛇がよりふさわしく、端的に役柄の性格が表現されています。

室町時代後期に成立した能の伝書「八帖本花伝書」においても、「葵上」には般若が、「道成寺」には蛇がふさわしいと記されており、古くからの組み合わせが定着していたことが分かります。

現在、私たちが能面を目にする場所は、博物館や美術館が圧倒的に多くなっています。能面が能を演じるための道具であり、そのためにさまざまな工夫を凝らして作られたことを考えるなら、展示ケースに納められた能面は、舞台という生きた場所から切り離されてしまっているとも言えるかもしれません。博物館や美術館で能面を見る際には、それぞれの面の表情や形だけでなく、その面が舞台において、何の演目の何の役で用いられるのかにも、ぜひ注目してみてください。

【彦根城博物館学芸員 茨木恵美】
写真の能面は、テーマ展「霊の面 怨霊・亡霊・神霊」井伊家伝来能面から」で、8月23日(金)から9月24日(火)まで展示します(9月17日(火)は休館)。

とまきの玉手箱

博物館からのメッセージ